

第2回「緑の回廊」自然再生検討会－「土湯の森」の再生に向けて－

緑の回廊内にある「放置されたスキー場跡地をどのように森林に再生していくか」を検討するため、7月5日に現地検討を兼ねた第2回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生検討会が開催されました。

当日は、自然保護団体、学識経験者、地元関係者、関係行政機関で構成される8名の委員全員が出席し、午前中最上川スキー場跡地で現地検討を行い、午後から戸沢村役場会議室において、再生の基本的な方向性などについて意見交換が行われました。



現地検討では、当センターから植生の現況やコース内の浸食状況、リフト・食堂等の施設、作業道の状況などについて説明するとともに各委員が現地の状況を確認しました。

コース内の一部には、ブナやスギなど高木となる樹木の稚樹が多く発生している箇所もみられましたが、全体的には表土が薄く、樹木の生育にとって土壌条件の良好な箇所が少ないことから、スキヤタニウツギ等の植物が多く見受けられました。

午後から行われた意見交換では、事務局を代表して指導普及課長より「最終的な目標とする広葉樹を中心とした天然林の再生について少しずつ方向が見えてきたと感じているが、これに向けた基本構想をまとめていくため、再生の仕方を含めた様々なご意見をいただきたい。また、動物の移動や森林生態系の保全といった緑の回廊機能を回復するため、より良い方向に進めていきたい。」との挨拶がありました。

委員からは、現地検討を踏まえ「植え付けても根付くかどうか」、「まずは浸食を防ぐことが重要」、「種をまく必要はない」、「自然に発生した稚樹が育つような環境作りが大事」さらには、「地域の小・中学生等を対象とした自然環境教育への活用」、「地域との連携」といった自然再生に向けた活発な意見が出されました。

こうしたいろいろな意見がある中で、「大規模な土地の改変は行わない」、「自然環境教育の場としても活用する」という意見については共通していました。

今後、各委員から出された意見を踏まえ、事務局で自然再生への取組等についての基本構想(案)を作成し、次回検討会で議論することとしています。

